

## 神に捧げる甘い味わい

キー・ヴァース「あなたは内臓と足を水で洗い、祭司はそのすべてを祭壇の上で焼かなければならない。それは燔祭であり、食物の供え物であり、主に喜ばれる香りである。」  
レビ記1:9

厳選された聖典  
レビ記1:1-17

嗅覚が示す象徴は、聖書の中で犠牲と献身の思いを伝えるために使われている。エフェソの信徒への手紙5章2節で、使徒はこう言っている。"キリストが私たちを愛し、私たちのためにご自身を捧げられたように、私たちも愛の道を歩みなさい。この言葉によって、パウロは私たちをイスラエルの幕屋の儀式に引き戻し、その儀式に関連して、聖なる区画にある金の祭壇の上で香が焚かれ、その香りの匂いが第二のベールを越えて至聖所にまで浸透していたことを思い起こさせる。この行為の指示には、"だから

香は、  
、代々、主の御前で定期的に焚かれる  
"と記されていた。出エジプト記30:1-8

幕屋の礼拝を規定する指示は非常に正確だった。イスラエルの贖罪の日には、大祭司アロンが罪の捧げ物のいけにえの血を至聖所に運び、慈しみの座に振りかける。しかし、その前に、アロンがベールの下をくぐる前に、その煙と匂いを至聖所に浸透させるために、まず金の祭壇で香を焚く必要があった。そうしなければ、至聖所に入るときに死んでしまうからである。(レビ記16:11-14)。焼香の煙と匂いは、犠牲の業が正しく行われ、神に受け入れられたことの証拠であった。

キー・ヴァースとその文脈に示されているように、かがり火の祭壇で焼かれた動物のいけにえもまた、「主への甘い香り」とみなされた。(レビ記1:5-9)。肉や穀物の供え物も、主の指示に従って祭壇の上で焼かれたとき、同様に "甘い香味"とみなされた。レビ記2:1-9

甘美な香り」とされたイスラエルの前述の儀式はすべて、イエスの宣教、従順、犠牲を、さまざまな形で指し示すものであった。(エペソ5  
28  
夜明け

:2)。主イエスに奉献された信者たちもまた、犠牲を捧げ、イエスの死にあずかるバプテスマを受けるよう招かれている。(ローマ12:1; 6:3-4)。クリスチャンの犠牲の働きは、特に"キリストの体"の仲間のために向けられる。第一コリント12:12-14, 27

ピリピ4:18で、使徒パウロは、ピリピの教会側がローマで獄中にあったパウロに贈り物を送ったという犠牲の証拠について言及し、それを"神に喜ばれる、香ばしい供え物、受け入れ可能ないけにえ"と言っている。ここには、イスラエルの幕屋の教訓を教会に適用するパウロ自身の権威がある。さらに、神は私たちの犠牲と奉仕を互いに捧げ合う真心によって、私たちが神に献身しているかどうかを試されているのだ。

嗅覚の象徴は、神への真の献身と単なる口先だけの奉仕とを見分けるのに役立つはずだ。犠牲の"匂い"が感じられないところでは、真理がどれほど深く私たちの霊的生活に浸透しているのか疑問に思うかもしれない。真理に対する私たちのビジョンは、他

者のために犠牲を払い、  
奉仕する特権を明らかにするはずであり、主に対する私たちの心からの献身は、他の人々が祝福されるために、私たちの命を捨てることを素早くさせるはずである。こうして、私たちの献身の甘い香りは強くなる。ヨハネ15:13；第一ヨハネ4:7-11